

## （「大和高田・橿原・葛城ものづくりメッセ 2008」が開催）

「大和高田・橿原・葛城ものづくりメッセ 2008」（主催：大和高田商工会議所、大和高田ものづくりネットワーク、橿原商工会議所）が11月9日～10日、大和高田市の奈良県広域地場産業振興センターで開催され、全体で81の企業、団体が参加し、2日間で延べ約5,200人が来場した。

大和高田・橿原・葛城地域には、古代よりものづくりの技術集団が形成され、そのDNAを受け継いだ技術者や未来志向の経営者が多く、それらの企業がこの地域の経済を支えている。

「ものづくりメッセ」は出展者が、新たな連携先を見つける場、異業種の優秀な技術力と連携していく場を提供しようと、昨年から開かれている。今年は、橿原商工会議所、そして香芝市、葛城市、御所市、広陵町の各商工会へ呼びかけた結果、参加企業が前回より大幅に増加した。

大ホールでは、奈良県中南和地域の企業など40社が、独自に開発した商品や新しい技術をブースに展示した。

例えば、建設機械関連商品製造の会社が、産学官連携による水稻の花芽の育成を阻害しない照明灯の開発を手がけていたり、建築金物販売の会社が、風力発電や屋上緑化による温度の低減など環境対策商品を展示していたり、既存の業態から新分野へ進出しようとしている企業があり興味を誘った。

ロビーでは、16社が参加し、地域特産品の物産展が行なわれた。柿のお菓子、わらび餅、「大和マナ」のお弁当・ジュース、婦人服、サンダル、靴下、ハンドバッグ、レディースニットなどを販売していた。

また、展示ホールでは「食のサーカス・フードピア」が今年初めて開催され、地域の食材を紹介。地元グルメ企業や名店計16店が出店。和牛のビール煮込み、大和地鶏のつみれ汁、地場野菜サラダ、地酒など自慢の逸品を特別価格で販売、多くの来場者で賑わった。

大和高田商工会議所の担当者は「地域企業が元気になれば、地域も元気になれる。各企業が、技術の連携をしい、自己の力で自社ブランドを立ち上げて欲しい」と話していた。（上田）



企業のブースで情報交換する来場者



賑わいを見せる地域特産品の物産展



地元の食材を賞味できる「食のサーカス・フードピア」

（写真提供：大和高田商工会議所）

## セミナーだより

### ●第二回 ナント食の商談会（主催：株式会社南都銀行）

11月21日（金）、南都銀行は奈良県内などの地場産品の生産者と仕入業者のビジネスマッチングの場を提供し、地場産品や食材の販売促進を図る目的で「第二回 ナント食の商談会」をマイドームおおさかで開催。当日、売り手である食品の生

産・加工業者64社と県など8機関がブースを設けて特産品などをPRした。また、買い手の仕入れ業者23社は、出展している生産・加工業者等と商談ブースで活発な個別商談を行うなど、終日盛況であった。

本コーナーでは、当センターが後援した講演会・セミナー等をご案内しています。